

児童分野／事前配付資料

「演習事例」及び事前課題について

児童発達支援管理責任者研修

- ◆ 研修では、本事例を活用し演習を行います。
- ◆ 事前に内容を熟読して、「課題の整理表」(記入様式1)「個別支援計画」(記入様式2)を作成してください。「事例の概要」については、100字程度でまとめてください。
- ◆ 所属する事業所・施設における「地域の関連機関との連携」(記入様式3)についてご記入下さい。
- ◆ **12月7日(木)**に、各自作成した「課題の整理表」「個別支援計画」「地域の関連機関との連携」を **各10部**ご持参ください。演習のグループワークで使用致します。

◆「研修テキスト 1 児童発達支援管理責任者に係る事業概要」と「放課後等デイサービスガイドライン」(山形県社会福祉事業団ホームページよりダウンロード)を印刷し読んで下さい。ダウンロードした文書は、講義で使用します。**12月7日(木)**にご持参ください。

* 当日上記の講義では、要点のみ説明します。事前にご確認していただき、準備の方よろしくお願い致します

【その他】

- ◆ **12月7日(木)**に、普段使用しているアセスメント票、個別支援計画の様式を **1部** と名刺を **10枚**、ご持参ください。

◆ 12月7日(木)に必ず持参していただくもの
(講義や演習で使用します)

・「研修テキスト1 児発管に係る事業概要」と「放課後等デイサービスガイドライン」を印刷し、持ってきます。

・名刺 10枚

・12月7日(木)の朝、①～⑤は、提出になります。

* ①～③は、片面印刷、ホッチキスで綴らないで下さい。

①「課題の整理表」(記入様式1) 10部(片面)

②「個別支援計画」(記入様式2) 10部(片面)

③「地域の関連機関との連携」(記入様式3) 10部(片面)

④普段使用している「アセスメント票」の様式 1部

⑤ " 「個別支援計画」の様式 1部

課題整理の記入についての工夫

- ・事例研究①では、(1)アセスメントの実施と課題の整理(2)時間軸に配慮した到達目標を含む個別支援計画の作成が目的である。
 - ⇒ 課題整理表は、発達支援(3項目)と家族支援(1項目)、地域連携(1項目)の領域ごとにまとめるような様式になっています。
- ・事例の概要(要約)は、全体像の把握、要約の有効性を確認するため、以下の要領を参考にして記入するとその差異が確認出来る。

- ・ご本人の発達課題や意向等のニーズを一つひとつ整理しながら、支援課題を全体的に整理する。
- ・支援課題については、ご本人や家族の状況、環境の状況に分けながら整理する。
- ・支援者の気になることや推測できることには、ご本人の強さ、可能性等を含めて整理する。
- ・アセスメントはできることとできないことをチェックすることが多く、ご本人の全体像がぼやけてしまうことがある。ご本人や家族の希望に即した支援を行うためには、ご本人の全体像を確認(要約)する。
 - ⇒ 事例(アセスメント)の概要を、100字程度でまとめてみる。
- ・ご本人の全体像をふまえて、ご本人のニーズに即した支援を行うための解決すべき課題を整理する。

課題の整理表

受講者名 _____

利用者名 _____ さん

事例の概要(100文字程度)

	発達課題(ニーズ)・意向等の把握	利用者の状況 ・環境の状況	支援者の気になること ・推測できること (事例の強み・可能性)	解決すべき課題 (具体的な到達目標)
発達課題① ()				
発達課題② ()				
発達課題③ ()				
家族支援				
地域連携				

課題の整理表作成時の留意点(例)

**他の事例の例です!!
本事例とは関係ありません。**

目標とつながっていきます。

利用者名 さん

	発達課題(ニーズ)・意向等の把握	利用者の状況・環境の状況	支援者の気になること・推測できること(事例の強み・可能性)	解決すべき課題(具体的な到達目標)
発達支援	友達のやっていることに興味があり、自分でやってみたい様子。	食事(お箸)やままごとの時、友達の様子をじっと見ているが関わりはない。	興味がある時には、じっとお友達の様子を見ることができる。	興味があること、やってみたいことに挑戦する
家族支援	・まずは、情報提供①～④や子どもの支援利用計画等に記載されているニーズに該当する文言をそのまま抽出する。	・まずは、情報提供①～④や子どもの支援利用計画等に記載されている状況で左記に挙げたニーズに該当する文言をそのまま抽出する。	・障害特性や家族像、地域資源等の一般的なイメージから推察される「強み・可能性」の記載。 ・より個別性を持たせるため、具体的に記載する。	・ここで挙げられた記載内容が、「個別支援計画」の具体的な到達目標となりうる。文言は自分で考える。
地域連携				

事例の概要(100文字程度)

課題の整理表(例)

* 例です。本ケースとは関係ありません。課題をする際、参考にして下さい。

No	発達ニーズ・意向等の把握	初期状態の評価 (利用者の状況 ・環境の状況)	支援者の気になること ・推測できること (事例の強み・可能性)	解決すべき課題
発達支援	* 今とはとにかく、B園でも保育所でも、その生活に慣れて行ってほしい。	B園のクラスに体験で入った時は笑顔は少し見られ、母親に抱かれて、子どもの様子をよく見ていた。 大人との一対一での遊びでは、反応はよく、対人興味は良好。	体力的にはまだ1歳後半くらいの状態。まだまだ疲れやすい状態にある。スキンシップを求め、笑顔はさらにたくさん引き出せていけると思う。自分でやろうとする自我は芽生えている	集団の流れとは別に、ゆっくりと過ごせる時間の設定は大切ではないか。その中でも本人なりにできることは、手を出しすぎないようにして、見守っていけるよう配慮すべき。
	* まだしゃべることができない。焦ってはいないが、たくさんしゃべるようになってほしい	認知面、手先の操作性のレベルは一歳前半で、口腔機能だけでなく全般の筋力の弱さ等を考えると、まだ発語が出てくる段階ではない。	関心があることはよく注目し、繰り返して何度も遊んで楽しむことができる。 何でも緊張はしやすく、慣れるまでに時間はかかるが、気を許すと積極的に人と関わろうとする姿も見られる。	言葉の発達に関しては、時期を見て両親に対し、どのような発達になるのか見通しを示していく機会を持つことは必要。 表現としては、動作模倣と日常的な生活場面でのジェスチャーの獲得の段階。
	* 保育所では友だちを作ってほしい(おとうさん)	子どもが遊ぶ様子を見ていることはある。持っているものをとられた時は、きょとんとしていた。 個別指導を行う部屋では、大人が行う手遊びやペープサートによく注目していた。	机上で一つの玩具でよく集中して遊べる子がいると、じっと見ていたことがあった。活発に遊ぶ子どもに対しては、その動きを追いかけることが難しそう。	金タロくんが遊ぶ遊びは、少しでも多く具体的に両親に伝えていきたいところである。大人との遊びが、今は最も刺激があることになることも伝えたいところ。
家族支援	* 母親は父親に対してもっと子どもと関わってほしいと感じている。また長女に対し、しばらく放任だった気がしている。	父親とゆっくり話す機会はないが、一度会った感じは、愛想のよい優しいお父さんではあった。タロくんの姉は、はきはきした口調で話しをする。明るく元気な印象。	子どものことで頭がいっぱいになっている母親を、そっと見守っている父親ではないか。母は子ども二人のことと自分の就労のことで混乱気味なので、寂しい思いをしつつ、今の状況を受けとめているかもしれない。	父親の言い分をしっかりと受け止めていく機会は作っていきたい。タロくんの姉は母親そっくりのタイプとも感じる。似ているからこそ生じる子育てに関することを、一度話しをしていき、励ましたい。
地域連携	* 保育所との併行通園となる	送迎のことを考えて選んだ保育園。規模的にはやや大きめで、タロくんの入るクラスは、27名で二人担任。	クラスには他に担任が気になっている子が二人いる。その子らのことも含め加配職員が一人つくことになった。	定期的に連携をとっていくことは、保育園園長としては大歓迎とのこと。その頻度と連携の仕方について、近く具体的に決めたい。

個別支援計画作成のポイント

- **子どもの(障害児)支援利用計画に基づき個別支援計画作成。**
- **本人や家族のニーズがきちんと反映されているか？**
- **支援者側の押し付けになっていないか？**
- **本人や家族を中心とした計画を、本人、家族と一緒に作っていく過程こそが大切。**
 - 様々な場面にキーマンが存在する。困難な事例とされる場合においても、力のない状態はない。
 - 障害の受容ができていないことを目標が達成できない理由にしない！
- **家族が(場合によっては子ども自身も)分かりやすい言葉で書く**
- **支援内容を抽象的な言葉でごまかさない。**

(例：安定した生活、楽しい暮らし、薬がちゃんと飲めるように・・・etc。但し、家族、特に母親の精神状態から判断して、意図的に支援目標の表現をあえて抽象的にしていくことも必要になることはあります。)
- **発達支援の視点を必ず意識した上で、具体的な目標、期間を設定する。**
 - 内容が具体的であるほどに家族はストレスになる場合もあります。示された側の気持ちも考えて、目標や期間の設定はしていきましょう。また、言葉の表現・使い方も気をつけ、何度も見直しをしていきましょう。
- **家族の持つ力を引き出し、子育てを少しでも前向きに考える計画になっているか。**
 - スモールステップで着実に進むということではなく、いくつかの達成可能な目標を示しながら、その優先順位を共に考え、互いに納得した上で、一つ一つゆっくりと取り組んでいくことが、長期的に考えると大切です。また、子どもの成長にも、家族の気持ちにも、「停滞」「立ち止まり」「休憩」は必要です。あえて「向上」を目指さずに、子どもと家族の気持ちを和らげる時期を意識できるといいですね。
- **本人や家族が出来ること、出来そうなことは、温かなまなざしで見守る。**
 - 要望があったから支援を行うというものはいけません。話を聞き、寄り添うだけでも立派な支援になることは、多いものです。

総合的な支援方針

日中は元気いっぱい過ごせる生活リズムを維持しながら、地域で活動する場を増やすなど新之助くんの新しい一面や楽しみを見つけていけるよう関係機関と連携し支援していく。

○到達目標

長期(内容、期間等)	
短期(内容、期間等)	

○具体的な到達目標及び支援計画等

項目	具体的な到達目標	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	サービス提供機関 (提供者・担当者等)	優先順位
発達課題① ()					
発達課題② ()					
発達課題③ ()					
家族支援					
地域連携					

個別支援計画作成時の留意点(例)

利用者名 _____

作成年月日: _____ 年 月 日

○到達目標

長期(内容、期間等)	
短期(内容、期間等)	

- ◎どのような子どもに育てほしいかを保護者とともに
- ◎ワクワク、ドキドキ感のある計画になるように本人とともに
- ◎具体的な到達目標とリンクさせることが必要
- ◎具体性は必要だが、気持ちの在り方や育む力など緩やかな表現も
- ◎長期目標は約1年、短期目標は3~6か月で設定

○具体的な到達目標及び支援計画等

項目	具体的な到達目標	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	サービス提供機関 (提供者・担当者等)	優先 順位
		<p>支援期間終了後(モニタリング時)に到達しているであろう「子どもや家族の様子」を記載【主語は子ども・家族】</p> <p>言葉で発せられるニーズだけでなく、子どもの成長に必要な「発達ニーズ」も検討して目標を設定</p>			

- ・発達支援と家族支援と地域支援の割合は3:1:1を目安に設定。項目欄は、発達支援では発達課題(運動、遊び...)で記載してもよい⇒アセスメントと直結
- ・「課題の整理表」で作成した「解決すべき課題」を考慮し、記載する。

到達目標に掲げた子どもや家族等の様子になるよう、事業所がどのような「専門的な支援」、工夫、配慮を行うのかを具体的に記載。家族支援および地域支援の場合も具体的働きかけを記載【主語は事業所】

※ モニタリング時に、事業所の支援の質、力量が問われる⇒達成できなかった場合は子どもや家族、地域のせいではなく、事業所の目標設定や支援内容が悪かったと評価する

総合的な支援方針

- ◎障害児支援利用計画(こどもの支援利用計画)に記載されている、総合的な支援方針と同じ内容が入ります。
- ◎どのような子どもに育てほしいのか、育てたいのかなどを含め、支援の見通し、イメージが持てるように(1年ではない長いスパンでの見通しも含めて)したものになります。

記入様式②の位置と異なっていますが、同じ内容です。

____ 月 ____ 日 利用者氏名 _____ 印 児童発達支援管理責任者 _____ 印

地域の関連機関との連携の記入について

所属する事業所・施設における関連機関との連携について記入し、出来るだけ詳しくまとめて下さい。
この課題は、貴事業所・施設を取り巻く地域の中で活用可能な社会資源の状況を把握するもので、貴事業所・施設の置かれている状況や地域性を理解するための前提となるものです。

「地域の関連機関との連携」の記入の方法

- ①改めて、お近くの児童施設や行政の窓口、社会福祉協議会、インターネットでどんな機関が地域にあるのかを調べてみましょう。障害者相談支援事業所や特別支援学校、居宅サービス事業者等から周辺情報を得てもよいでしょう。
- ②貴事業所・施設が、現在あるいは将来利用する可能性のある教育・療育機関、サービス提供事業所や医療機関などについても、必要と考えていれば記入しておきましょう。
- ③実際に連携を取っている関連機関については、連携の度合いの強さが(頻繁に連携を取っている・必要に応じて・児童の入退園の時のみ・相手側から連携を求められた時のみ)図の中でわかるように書き表してみてください。

度合い
関係性

 : 関係が強い  : 関係が普通  : 関係が弱い

 : 相互関係  : 一方的

- ④個人的なつながりで、月に一回来てもらって言語指導をしてもらっているなど、関連の機関や組織というわけではなく、個人であっても、大切な療育資源ですから、記入して下さい。その際、その個人が特定できないように、十分に留意した表記をして下さい。(例:A大学のB先生月1回)
- ⑤フォーマルな社会資源のみではなく、インフォーマルな資源もご記入下さい。公民館で実施している子育てサークルや手作りおもちゃのグループ、事業所・施設の近隣の町内会や、気が向いた時にボランティアとしてくるが結構スタッフに影響力のあるCさんであるとか、無理のない範囲でご記入下さい。

○留意点

- * 現在は児童関係の事業所に直接は関わっていない方もいらっしゃると思いますが、勤務している地域の児童の支援の状況を十分に把握した上で、児童関係者の協力も得ながら、できるだけご記入下さい。
- * 事前課題につきまして、記入される内容に私的なつながりや、個人が特定されるような記述は、対象となる方に同意を得て下さい。(その場合は個人情報特定できないように処理して下さい。)

1. 事業所における関連機関との連携に関するエコマップ



エコマップとは...様々な社会資源との相関関係を系統的に図解したものです。

2. 上記のエコマップを記入してみて、今後の課題となることについての気づきをご記入ください。

Blank rectangular box for writing answers to question 2.

事例に関する説明と個別支援計画作成にあたって

- ・本ケースでは、丸井新之助さん(小学3年生)が(月)(火)(金)はデイサービスセンター・アートへ(水)(木)(土)は放課後等デイサービス・どあどあを利用しています。子どもの支援利用計画は サードハウス子どもの相談支援事業所が作成しています。
- ・丸井新之助さん(小学3年生)は小学1年生の時からデイサービスセンター・アートを利用しておりますので、本来なら既に個別支援計画が作成され、個別支援計画の修正を繰り返しながら、サービスの提供が行われていることとなります。
- ・しかし、本研修では“個別支援計画を作成する”というところに主眼を置き、受講生の皆様からは デイサービスセンター・アートの児童発達支援管理責任者として、いちからの個別支援計画の作成にあたって頂きます。事例の情報(情報提供1～4(H29.3時点))と、サードハウス子どもの相談支援事業所の支援利用計画(H29.3.21作成)を踏まえて、個別支援計画を作成していきます。
- ・情報提供2では「平成28年度12月における母親からの要望等」と記載されたアセスメントに違和感を感じたり、情報が十分でなかったりして新之助さんがどのような子供なのか、人によってイメージ像が異なり、個別支援計画を立てることは難しいかも知れませんが、丸井新之助さんの為の良い個別支援計画を作成して頂ければと思います。

相談受付とプロフィール

デイサービスセンター・アートによる評価

* (H29年3月の時点でのプロフィール 9歳1ヶ月時)

氏名	丸井新之助	性別:男	生年月日:平成20年2月14日	利用状況	本事業所を週3日(月・火・金)利用。送迎は事業所の車を利用。 一年生時から利用している。日課としては、個別課題に沿った内容での感覚系の机上での遊びを中心とした室内でのコーナー遊び⇒部屋の雰囲気を変えリラクゼーションのための活動(ゆったりした動き・光・風を楽しむ)・マッサージ等⇒絵本・紙芝居・スタッフの劇⇒片づけ⇒帰りの会	
診断名	ダウン症候群				他機関の利用や、連携について	児童発達支援センターMM園は、1歳半から利用。親子教室への参加を経て、2歳児の時に入園。年中からは保育所との並行利用。母親は時折、MM園の先生には電話をかけ、話をしているとのこと。 学校は特別支援学級(知的)に入学時より在籍。一時期、よく他の児童に手が出るので、交流の時間は母親がついてくださいと言われたことがあるが、仕事を辞めるつもりはないと伝え、その後その話は出ていない。 出産した総合病院には年に一回行き、診察を受けている。療育的な機関に行くことに母親は関心はあるが、時間がないこともあり、就学後に利用している事業所以外では利用歴はない。
医療情報	生後間もなく心室中隔欠損症と言われたが、経過を見ながら今日に至る。特に運動制限なし。眼鏡所持。白内障。 身長:122.7cm 体重:26.3kg					
生育歴	妊娠時:普通分娩。在胎39週 体重3240g 身長48cm 頭囲32cm、定額0:6 寝返り0:7 座位1:1 四つ這い1:6 始歩1:8					
家族構成	父、母、兄、姉の5人家族。			家庭環境	賃貸マンション、3LDK。和室の部屋で、母と長女と本人は寝ている。一部屋は長男と長女の勉強部屋。もう一部屋は父親が寝る部屋で、物置化しているとのこと。 新くんはマンションでも有名。ちょっと目を離すとインターフォンに手が届きだしたので、すぐボタンを押し、その家の方と話をしている。住宅地だが、隣がコンビニなので、何度か家を抜け出し、家族の人数分のアイスを買ったことが数回あり、母親が在宅の時ではない時ばかりのため、「私がいなくて何をかわからない。」と思っているとのこと。	
家族状況	<p>母親について:医療事務職員。職場の理解により、ある程度時間には融通は利かしてくれるが、通常は9時から17時過ぎまでの勤務。自分で納得できるまで質問し、見通しを立ててから行動に移すようなところがあり、手抜きをすることがなかなかできない印象。家庭内はきれいに整頓されており、連絡帳には丁寧な字で連絡事項にもきちんと答えてくる。本児の奔放さとは180度違った性格。電話での話も、用件以外の話になることはない。腰が低く、周りにもよく気を遣っている。親の会などを通じ、福祉の情報についてよく知っている。</p> <p>父親について:仕事は朝早く夜は遅く、休日出勤もある。普段は姿を見ることはない。長男に対してはいつも厳しい態度で接し、長女に対しては甘やかし過ぎという母親の評価。本児と休みの日にスーパー銭湯に二人で行くことが唯一の趣味と言っているとのこと。昨年度あたりから出張も増え、お疲れモードの様子。</p> <p>兄について:中学一年生。成績優秀で、まじめでおとなしいタイプ。話しかけるとよく答えてくれる。部活は吹奏楽部に所属でパーカッション担当。</p> <p>姉について:小学校六年生。明るく活発で、誰とでも友達になるところがある。母曰く、お転婆で、忘れ物が多く、いつも注意をしていないといけないとのこと。また、静かにしていることが少なく落ち着きがないとのこと。ディズニーランドで早く働きたいと言っているらしい。好奇心旺盛で、おしゃべり大好き。</p>					

* 小学三年生 9歳1ヶ月、平成29年3月時点の状況を、初回のアセスメントとします。

<p>事例について</p>	<p>出生前からダウン症の疑いがあることは指摘され、総合病院で出産。以後、病院へは1歳半くらいまで、受診と歩行を目指した指導を受け月に2回ペースで通う。児童発達支援センターMM園を利用始めてからは、就学までMM園の助言が中心であった。年中の時に公立の保育園に入園。卒園後は、地元の小学校の特別支援学級に就学。当事業所は、一年生の4月から利用。この三月で3年経過した。</p>
<p>支援体制 について</p>	<p>当事業所の送迎あり。近隣の方のみの利用としている。事業所の利用者は、日々8～10名。契約者は34名。日々の直接支援スタッフは、3～4人。(常勤は必ず2～3名以上。後はパート職員)木曜・日曜日は休み。</p>
<p>事例における 当事業所を利用 するまでの状況</p>	<p>MM園と当事業所は日頃から、研修も含めた連携を取っており、特にMM園の園長と作業療法士のアドバイスは定期的に求めてきている。そのこともあり、就学を機に、MM園が当事業所を紹介。(相談支援専門員は、本児が二年生の時からの担当だが、MM園の時の本児の様子は知っている方でもあった。)当事業所としては、MM園在園の頃の本児の様子は、行事も含め度々MM園を訪れており、本児が目立っていたのでよく知っているケースであった。保護者の方としても、すんなりと当事業所を利用することを決められた。但し当事業所としては、療育支援の目的を果たすために、一人でも多くの子どもに利用してもらいたく、通常は週二回までの利用とし、就労している母親に限り週三日までの利用としている。そのため、他の放課後等デイの利用も必要となり、当時は当方の紹介でいくつかの事業所を見学してもらい、「どあどあ」へ水・木・土曜日に通うことになった。「どあどあ」は、自由遊びを中心に放課後と週末の障害児の居場所として機能している事業所)</p>
<p>平成28年度 12月における 母親からの要望等</p>	<p>年に二回、保護者の方からのご要望等を確認しているが、前回12月(本児が3年生の二学期末)に行った面談では次のような話があった。(面談は家庭訪問により実施している。)</p> <p>*「これからこの子の兄と姉は大切な時期に入ってくると思いますが、この子が元気があり余りすぎて、あちこちでご迷惑をおかけしておりますので、上の二人には何かと負担をかけていることでしょうか。二人の勉強の邪魔は毎日しておりますし、できればもう少し遅く帰宅してくれたら、上の二人にとっては助かることになるのではないかと思います。」</p> <p>「時々他のお子様を叩いたり、ひっかくこともあるようです。4年生になりますので、もうそろそろ落ち着いてくれなくては、さらに力がつき、ひどいけがをさせてしまっはと思うだけで、胸がざわついてしまいます。」</p> <p>「こちらでは、とても静かに大人しく過ごしているようです。毎度のようにお尋ねしてすみませんが、やはり叱りすぎたり、私が仕事をしていることでの配慮不足から、わがままに育ったのではないかと思います。」</p>

事例の発達の状態

平成29年3月時点の状況

デイサービスセンター・アートによる評価

項目	状態	項目	状態
日常生活の技能	おやつの際は、スプーン・フォークを使用。咀嚼は弱く、ほとんど噛まずに飲み込むことがほとんど。偏食はないと思うが、やはり噛みごたえのある物は残しがち。水分はあまりとりたがらないので、定時に勧めていくようにしている。排泄については、ズボンをずらしているものの、前に腰を突き出すことが不十分で、よそ見も多いため、濡らしてしまうことがある。着脱は、自分ではやろうとするものの、左右裏表は今でもお構いなし。		
健康体調	休むことなく事業所を利用している。眼鏡はかけていてもかけなくても本人としては気にならない感じではある。時々投げってしまうことがあるとのことだが、当事業所ではそういった姿は見られない。ゆったりと過ごしているが、利用している時間帯に入眠することはなく、体力はついている。	感覚	特別な偏りはなく、初めてのことは不安を示し、必ず次第に慣れてくるといった状況。豆類を使って、手につかンでは、声を出しながらままごと用の食器に落としていくことを繰り返す姿がよく見られている。
運動機能	置いてあるボールを思い切り蹴り飛ばす。棒にぶら下がることは10秒くらい可。階段はわりとスムーズに上り下りできている。長縄跳びは中に入って2、3回一緒に跳べたことはある。プールでは10メートルくらい犬かきのような泳ぎ方で、泳げる。	道具の操作	ハサミで簡単な形は切り取れる。人の顔は目、鼻、口、耳、髪の毛まで表現し、時折手足も描けている。声を出しながら、よく集中し、カラフルな色使いで力強く色塗りしていく。車や、家、周りにある小物など、なんでもそれらしく描くことができる。
認知	記憶課題などの～はどれに対し、「三つ」覚えていることもたまにある。形の構成は二分割でも混乱することあり。絵パズルは、キャラクター絵なら20ピースくらいは最後までやり遂げる。積み木構成は、3、4個の内容までは何とか対応可。	移動	母親と一緒に歩き、できるだけ手をつながないと、今でも何をしでかすかわからないと言っているが、冬休みの行事の時に買い物に行った時は、スタッフの前を歩かせたものの、交差点では信号で止まり、左右を見て渡っていた。
理解の仕方	日常的な流れは、おおよそ言葉で理解できている。文章での声かけは、その中の単語を拾い、後は勘で行動しているように思う。作業の手順等を、絵で示すことがあるが、ほとんど参考にしようとならない。	表現の仕方	誰がどこでどうしたのかを述べるができる。発音はダウン症独特の言い方で、S音は不明瞭。幼児語はあまり聞かれなくなった。しりとり遊びが少しできるようになっている。曜日や日にちはよく間違えて言っている。
対人関係	誰にでも話しかけるところはある。関心を示してくれる人だとわかると、すぐに抱きついたり、握手を求めたりする。校長先生の頭をよくなげるとのことだが、自分より偉い人と思うとそうしてしまうところがある。	集団参加	授業中チャンスがうかがっては、「しんくんがやりま～す」と言って、やりたがる。できないとわかると、「こうた～い！」と言っている。イベントごとが大好きで、皆を集めたりなど仕切ろうとする。
興味関心	好奇心旺盛で、よくテンションをあげて大はしゃぎすることのだが、当事業所では、緊張しやすく、不安になり易いところはあると考えており、マッサージでよく筋肉をほぐしている。リラックスできる時間は増え、のんびりと絵本や雑誌を眺める時間が増えている。	好きなタイプ・嫌いなタイプ	笑顔を示してくれればすぐに本児にとっては好きな人になっている。疲れている人、ボンヤリしている人にも優しく接している。口うるさく注意ばかりする人でもおちやらけている。融通が利かず、こうしないとダメ！といった関わり方をする人は苦手で、近くにいるとそっと逃げていく。
その他、特記事項	叱られて反省することはあるが、すぐに立ち直る。相手の気持ちをそらすことがとても上手。誘われたら何にでも挑戦しようとするが、注意はそれやすく、言われたことをよく聞かず、周りを見てまねようとするをせずに、自分の思いで取り組むので、びっくりさせられることもある。ただ、リラックスして落ち着いた状況では、かなり指示も入り、見本をよく見てまねようとする面も事業所の中では見られている。		

発達の評価

平成29年3月時点の状況

使用検査: KIDS 乳幼児発達スケール(TYPE T)

記入日: 平成29年3月16日

記入日	H29年 3月16日		生年月日	H20年 2月 14日			生活年齢	9歳1ヶ月	
領域	運動	操作	理解言語	表出言語	概念	対子ども 社会性	対成人 社会性	しつけ	食事
得点	30	30	30	22	7	16	28	18	22
発達年齢	3歳10ヶ月	4歳6ヶ月	4歳5ヶ月	2歳8ヶ月	2歳2ヶ月	4歳2ヶ月	3歳7ヶ月	4歳0ヶ月	3歳0ヶ月
得点合計	203		総合発達年齢	3歳9ヶ月			総合発達指数	41	

「KIDS」について

スクリーニングタイプで、「母親記入式」であるが、当事業所で記入。事業所での姿を見ながら各項目を評価したが、チェックできなかったことについては、母親及び、他事業所、学校の担任の先生、相談支援専門員に尋ねている。

その他: 補足

特別支援学級(知的障害)に在籍。担任1名と教育支援員という方が二人おり、1年生二人・2年生・本児・6年生二人の計6人の児童が在籍。交流の機会は、給食、朝・帰りの集いには参加。一人で行って一人で帰ってきている。特別支援学級の教室から授業中に出ていくこともあるが、交流学級の授業に参加していることもあるとのこと。姉のクラスにも「失礼します」と言って、授業中であっても入ってくることもある。特別支援学級では、下級生のお世話(度々おせっかい!)をよくしており、先生からは、「丸井君がやるべきことをやってから、手伝ってください。」と毎日注意される様子。担任の先生は、特別支援学級の担任を二十年以上受け持っているベテランの先生。特別支援学級以外の同僚の先生を巻き込んで、学級の子どもたちの課題や役割を適宜伝えており、学校全体で特別支援学級を支えていくことが大切と考えている。以前は勝手に教室から飛び出すこともあった丸井君は、3年生の時より支援学級から出ていく時は、必ず行き先を伝えるようにはなっており、寄り道はあっても自分が宣言したところに行くようになっている。

ご家族は、両親共に仕事は忙しく、少々お疲れ気味の様子だが、新之助くん中心に考えており、休日には新之助くんの相手を誰かがしている。生活リズムが崩れないような程よい近場のお出かけを考え、将来につながるような体験はできるだけさせていきたいとも考えている様子。